

湖南省防災士連絡会 防災士インタビュー Vol. 1

令和4年7月11日、本日は防災士であり「みどりの村区」の幹事でおられます、川上 昭（かわかみ あきら）さんにお話しを伺いたいと思います。川上様は区の防災活動はもとより、湖南省防災士連絡会でも大変貴重なご意見をいただく場面が多く、当連絡会のZOOM会議環境を整えていただいたり、大変ご活躍されております。川上さん、よろしくお願い致します。



Q. 自己紹介をお願いします。

みどりの村区の幹事役の川上と申します。現在はみどりの村区の区長および菩提寺まちづくり協議会の役員を兼任しており、結構忙しい毎日を送っています。

防災士連絡会ではスキルアップ委員会に所属していますが、情報共有委員会にもオブザーバー的な立場で参加しています。

Q. どうして防災士になろうと思われましたか？

どこも同じと思いますが、区長が地域の防災組織（ふるさと防災）の隊長を務める事になっていました。その立場上、ある程度の実践的な知識を持っていないと隊長としての仕事ができないと考えて防災士になりました。また、当区では防災士の人数が少なく、隊員や知り合いに防災士を勧めなければならぬので、まずは自身が防災士にならない事には人に勧めることもできないですから・・・。

Q. 防災士として得た知識・技能を今後、どのようにして活用していきたいですか？

正直言って、防災士として得た知識や技能は有事の際にはある程度役立つかもしれませんが、そのような「有事」の際にうまく役立てる事ができるかどうかは疑問です。

今後活用したいのは日常における防災・減災の知識を地域に広め、実際に実施したい事です。

Q . ご自身で被災された経験がございましたら、お聞かせください

大きな被害を受けた経験はありませんが、東北地震の際に東京の20階くらいのオフィスで仕事をしていました。その時、ビルは大きく、ゆっくりと揺れました。とても立っていられず、天井からはパラパラと天井材の欠片がおちてくるのですが机の下にもぐるなんて事は不可能でした。なぜなら、座っている椅子にはコロがついていて、それがオフィス中を走りまわるからです。結果、椅子に座ったまま転がっていかないように机にしがみついているのが精いっぱいでした。その時に思ったのは、手をはなすと窓際まで転がって、窓ガラスを突き破って20階から転落するのでは・・・です。

また、今迄の地震では大きく揺れた後はすぐに収まったものですが、今回の地震では時間の経過にともなってどんどん大きな揺れになっていた事です。このまま揺れがおおきくなるとこのビルも倒れて、私も死んでしまうのかな・・・なんて事を考えてしまいました。二度とあのような思いはしたくないものです。



東日本大震災での東京のオフィスの様子

Q . 現在、実際に取り組まれていることがありましたらご紹介ください

現在は防災チームのメンバーが集まるチャンスがなく、残念ながら実際の活動や取り組みができない状況です。

地域として、避難所の設営マニュアルを作成という課題を取り上げ進めていましたが最終段階でコロナ中止となっていました。これを再開しようと考えています。

Q . 防災士を目指す方への一言、地域住民の方へのお願いなどをお願いします

既に防災士を目指そうと思っている方は大変ありがたいのですが、それ以外の方々は、特に若い方々はもっと地域活動に関心をもっていただきたいです。防災士だけでなく、何か地域に役立つ・地域の方が喜んで頂けるような事に時間を費やす事を面倒と思わないで、「大人の部活」的な感覚で飛び込んで欲しいものです。楽しい仲間・近所つきあいのきっかけとなる筈です。

Q . 今後の課題、抱負をお聞かせください。

今後の抱負として

- ・災害時における実際的な安否確認体制の確立
 - ・自宅における防災・減災の実施
- を進めたいと考えています。
これを読まれた方のご協力を期待しています。

本日はありがとうございました。